

氏名	伊庭治彦
学位(専攻分野)	博士(農学)
学位記番号	論農博第2469号
学位授与の日付	平成15年3月24日
学位授与の要件	学位規則第4条第2項該当
学位論文題目	地域農業組織の形成・運営・再編に関する管理論的研究 ——情報的資源の蓄積・活用を視点として——

論文調査委員 (主査) 教授 稲本志良 教授 吉田昌之 教授 新山陽子

論文内容の要旨

本論文は、情報的資源の蓄積・活用を重要な視点として、地域に賦存する営農資源の効率的な配分を機能とする地域農業組織の管理の理論を構築することを課題として、2つの分析視角から接近している。第1に、地域農業組織の展開過程を組織形成、組織運営、組織再編の3つに区分して、各々の過程において重要となる管理対象を特定化し、理論的・実証的に接近している(「地域農業組織の展開過程の区分による接近」)。第2に、地域農業組織による情報的資源の蓄積・活用に焦点を当てて、理論的・実証的に接近している(「情報的資源の蓄積・活用の効率化を視点とする接近」)。

第1章では、本論文における地域農業組織に関する認識の方法を事例の分析を通して提示している。具体的には、地域農業における作業体系の再編を進める地域を対象にして、多様な作業受託組織を再編する上で情報の流れを核とする制度的な地域農業組織が果たす役割を明らかにしている。また、この結果を踏まえて、重層的に形成される多様な地域農業組織がトータル・システムとしての地域農業組織を形成し、これら地域農業組織の組織間関係が構造化されることによって、営農資源の配分が行われることを明らかにしている。

第2章では、組織形成過程に関する管理について分析・検討を行っている。具体的には、農業経営の共同化を事例にとって、農業経営において必要とされる情報的資源の種類が組織構造のあり方を規定するとともに、共同組織が多様化する要因になることを明らかにしている。さらに、営農環境が複雑化するなかで、「共有型情報」の重要性が高まりつつあり、そのために柔軟かつ水平的な組織構造の形成が必要であることを明らかにしている。

第3章と第4章では、組織の運営過程に関する管理について分析・検討を行っている。地域農業組織の運営過程に求められるのは、組織の機能を効率的かつ効果的に充足することであり、構成員が行う組織への貢献に対して享受できる便益を最大化するとともに、構成員の貢献を最大限に引き出すことである。このことに関して、ここでは、組織参加の便益の維持・増大に関する管理問題と、組織内に発生する非効率の低減および構成員の貢献の効率的活用に関する管理問題とに区分して接近している。

第3章では、組織の運営過程に関する管理に対する第1の要請である「組織に求められる機能を的確に把握するとともに、環境変化によるニーズの多様化・異質化に対応した組織運営を行うことによって組織参加の便益を維持・増大すること」に関して分析・検討を行っている。具体的には、青年農業者の就農定着の支援を目的とする青年農業者クラブを事例に、クラブに求められる情報的資源の質的变化に対応することの必要性、クラブの情報処理機能の性能強化を図るために各クラブ員が外部環境とのインターフェイスとして機能することの重要性およびその効果を明らかにしている。

第4章では、組織の運営過程の管理に対する第2の要請である「組織内に発生する非効率の低減と構成員の貢献の効率的な活用」に関して分析・検討を行っている。具体的には、機械の共同利用組織を対象に、構成員と組織との間の情報の非対称性などによって生じる機会主義的行動とその非効率の発生原理を理論的に整理するとともに、現実の組織における影響を検証している。また、構成員の機会主義的行動とその非効率の発生に対処するために、地域農業組織の管理においても「経営の論理」を導入することが必要であることを明らかにしている。

第5章と第6章では、組織の再編過程の管理に関する分析・検討を行っている。組織の再編過程において求められる管理は、組織の構造や機能の再編を効率的に進めることであり、このことに関して、ここでは再編時の効率性に関する管理問題と再編方向の妥当性に関する問題とに区分して接近している。

第5章では、組織の再編過程の効率性に関する分析・検討を行っている。具体的には、地域農業組織の集落営農への再編を推進する地域を事例に、農家が行う「レント・シーキング」に伴う「インフルエンス・コスト」に注目して、組織の再編過程で不可避免的に生じる非効率によって形態的・効率的に多様な地域農業組織が併存し、また、非効率が内在する組織が維持されることを理論的に示し、検証を行っている。

第6章では、組織再編方向とそれを規定する要因に関する分析・検討を行っている。具体的には、地域農業の維持・振興を目的に各種関係機関が形成する連携組織を事例に、先ず、環境変化に対する適応行動としての組織の構造変動に関する分析モデルを構築し、次に、環境が複雑化する下で組織の情報処理機能の性能を維持するために必要となる構造変動の方向を明らかにしている。

以上の分析・検討の結果を踏まえて、環境変化が継起的に起こることを認識することが重要であり、地域農業組織と環境を適合させる管理が重要であること、また、地域農業組織の管理の成果が情動的資源の蓄積・活用に関わる効率性に大きく規定されること、それに対応した組織の形成・運営・再編が重要であることを主要な結論としている。

論文審査の結果の要旨

わが国の農業経営は、特に安価な農産物の輸入の増加という環境変化のなかで、多様な経営戦略を展開することが必須の要件になってきている。その経営戦略の展開のなかで、情動的資源の蓄積・活用、農業経営の共同化が重要になってきている。最近になって、このような動機に基づく多様な形態の農業経営の組織化が進み、それらの農業共同組織が更に重層的に結合されて、地域農業組織として重要な役割を果たしている。

本論文は、このような最近のわが国の農業における農業経営の共同化・組織化、地域農業組織の展開に注目して、地域農業組織の形成・展開・再編の管理のあり方を提示することを課題にして、理論的、実証的に接近したものであり、斬新な課題設定と分析方法によって注目すべき多くの新見を得ている。これに関して、評価すべき点は以下のように要約できる。

(1) 従来の研究では、地域農業組織の管理に注目するに当たってその形成・運営・再編という組織展開の各過程が有する管理上の特質に注目することはほとんどなかったが、本論文では組織の形成・運営・再編という展開過程各々について理論的・実証的分析を行っている。このことによって、各過程に特徴的な管理問題を抽出してより現実性を深めた形での分析を可能にしており、管理論的接近の精度の向上を図っている。

(2) また、地域農業組織をとりまく環境変化を継起的なものとして捉えることにより、農業経営及び地域農業の発展、地域農業組織の展開の過程を動的に捉えた理論的・実証的分析を可能にしており、このことによってこの研究の現実性を大きく増進している。

(3) 地域農業組織の管理に関するこれまでの研究では、情動的資源の蓄積・活用という視点は極めて希薄であったが、本論文では農業経営及び地域農業の発展過程における情動的資源の蓄積・活用の意義に視点を置いており、そのことによって農業生産活動の効率化に関して管理面からの接近の有効性を高め、高度化する情報社会のなかで農業経営及び地域農業の発展に向けて、地域農業組織が展開していくために必要な戦略の方向の提示を可能にしている。

(4) いわゆる「ムラ機能の低下」の問題を地域農業組織の管理問題として捉えなおし、既存研究ではほとんど言及されてこなかった組織構成員の機会主義的行動に注目した分析を行っており、そのことによって、今日的な組織問題への対応方向を提示すると同時に、今後の重要な研究領域と研究方法を示唆している。

(5) わが国の地域農業において重要な役割を果たしている地域農業組織の主要な形態を概ね網羅するように分析事例を選択すると同時に、農業経営及び地域農業の諸問題に地域農業組織の管理問題として接近することによって、本論文の有用性を大きく高めている。

このように、本論文は農業経営の発展、その共同活動の場である地域農業組織の発展の過程において、情動的資源の蓄積と活用が果たす役割とそのメカニズムを理論的、実証的に解明して注目すべき知見を提示しており、経営情報会計学、農業

経営共同化論，地域農業組織論の発展，また，農業経営及び地域農業の発展に寄与するところが大きい。

よって，本論文は博士（農学）の学位論文として価値あるものと認める。

なお，平成15年1月16日，論文並びにそれに関連した分野にわたり試問した結果，博士（農学）の学位を授与される学力が十分あるものと認めた。